

<別紙 2>

移動式 ICT ユニットの概要

「移動式 ICT ユニット」とは、東日本大震災を契機に、NTT、NTT コミュニケーションズ、富士通、東北大学が総務省からの委託を受けて研究開発を行い、災害時に被災地へ搬入・設置することで、通信機能を迅速に回復させる通信方式です。

■ 主な機能

(1) 通信の即時回復機能

大規模災害時、被災地に搬送・設置することで、災害対策本部や避難所などのスポットを、短時間で Wi-Fi エリア化し、エリア内の被災者に対して、ICT 利用環境を即時に提供します。例えば、通話機能としては、普通の携帯電話番号そのまま、Wi-Fi エリア内にいる相手との通話を可能とします。また、移動式 ICT ユニットに光回線や衛星回線などの広域網に接続することで、被災地の外側との相手との通信を可能とします。

(2) 被災者データ収集システム機能

従来、大規模災害下では、避難所での安否確認や管理が紙ベースの手書き情報で行われていました。本システムは、安否情報について、被災者の顔写真と免許証や学生証などに書かれた情報（氏名・住所・性別・年齢など）をタブレット端末のカメラ機能を活用して撮影し、被災者所有の IC カードの ID 番号と紐づけてシステムに登録することで、簡単・即時に被災者情報のデータベースを構築し、その後の被災者管理の効率化を可能とします。

(3) データセンター機能

移動式 ICT ユニットには、データセンター機能を搭載しており、被災地の地方自治体や病院など複数の組織が運用しているアプリケーションなどを ICT カーが提供する仮想サーバに移行することで、個々のシステムを組織ごとに簡易に運用管理することが可能です。



【車載型】

小型交換機やサーバ、無線機器（無線 LAN アクセスポイントなど）、スマートフォン（貸出用）などの装置を自動車（ワンボックスカー）に収容し、被災地に移動して、迅速にネットワークを構築し、通信手段を確保

【アタッシュケース型】

アタッシュケースに、小型交換機やスマートフォン（貸出用）、無線 LAN アクセスポイント、バッテリーなどの最低限の装置を収容し、被災地の避難所などで簡易に通信手段を確保する

(参考) 「大規模災害時、通信の即時回復を可能とする「ICT カー」の開発について」 (2014 年 1 月 28 日報道発表)

<http://www.ntt.co.jp/news2014/1401/140128a.html>